

噴火の概要

発生日時 1991年6月3日

噴火位置 山頂地獄跡火口

被害状況 前年の11月17日未明、普賢岳山頂東側の地獄跡火口、九十九島火口の2カ所から噴火。1991年5月20日、地獄跡火口に溶岩ドームの出現を確認。24日火砕流開始、以後頻繁に火砕流発生。6月3日に火砕流災害発生(死者・行方不明43名)。その後も火砕流が発生したが、1995年に溶岩の噴出が停止した。

被害状況は気象庁ホームページによる。

前年から噴火が継続している中、溶岩ドームが形成され、その崩壊によって火砕流が発生したんだ。

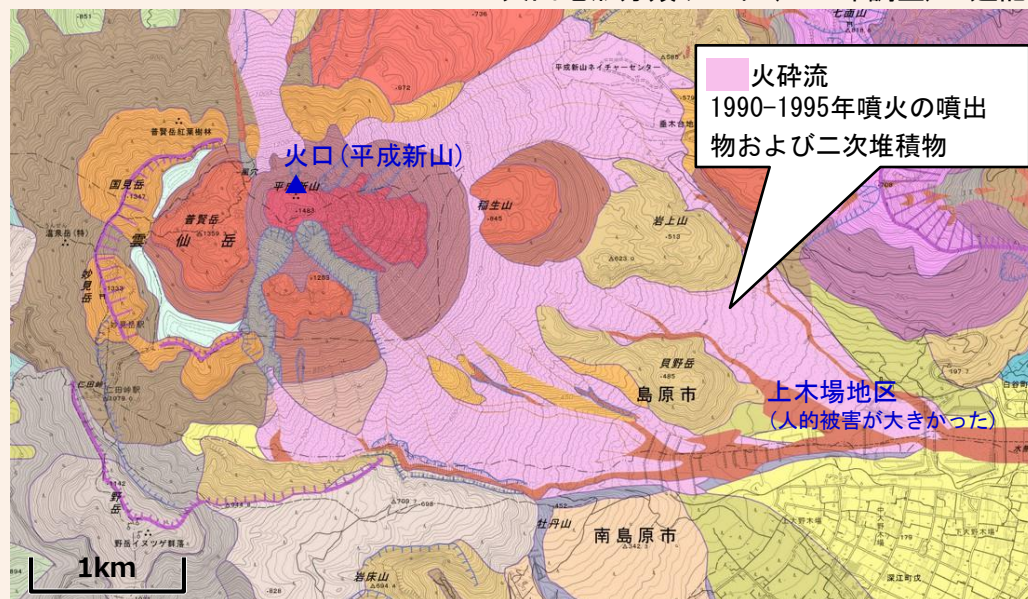
当時としてはあまり認知されていなかった火砕流による災害で、予想を超える場所まで火砕流が流下して大きな被害が生じてしまったよ。

自然現象は予測を超えることがあることを考慮した慎重な対応が必要だよ。



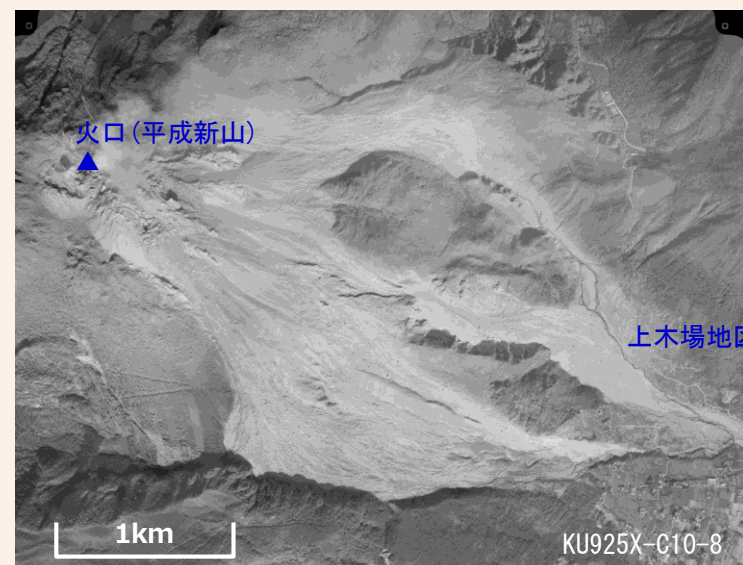
火口位置

火山地形分類データ(1996年調査)に追記



噴火後の空中写真

1992年11月17日撮影





1990-1995年噴火時の土石流経路

1957年豪雨(諫早水害)時の土石流経路
(太田, 1969より転写)

土石流堆

1km

The map shows the Sagami Bay area with various geological units and topographic features. A red arrow points to a specific location on the Sagami River. A scale bar indicates 3km.

A large, dome-shaped concrete structure, likely a fallout shelter, situated in a grassy field with mountains in the background. The structure is made of light-colored concrete and has a smooth, rounded top. It is surrounded by green grass and some low-lying vegetation. In the background, there are rolling hills and a prominent mountain peak under a clear blue sky.

火砕流など

北海道駒ヶ岳



噴火の概要

発生日時 1929年6月17日

噴火位置 山頂

被害状況 0時30分頃から噴火が始まり、次第に降灰が盛んになり10時頃に鳴動を伴い大噴火。11時00分の噴煙高度13,900m。午後から火砕流流下。噴石、降下軽石、火砕流、火山ガスによる被害は家屋の焼失、全半壊、埋没など1,915余り、山林耕地の被害多く、死者2名、負傷者4名、牛馬の死136頭。

被害状況は気象庁ホームページによる。

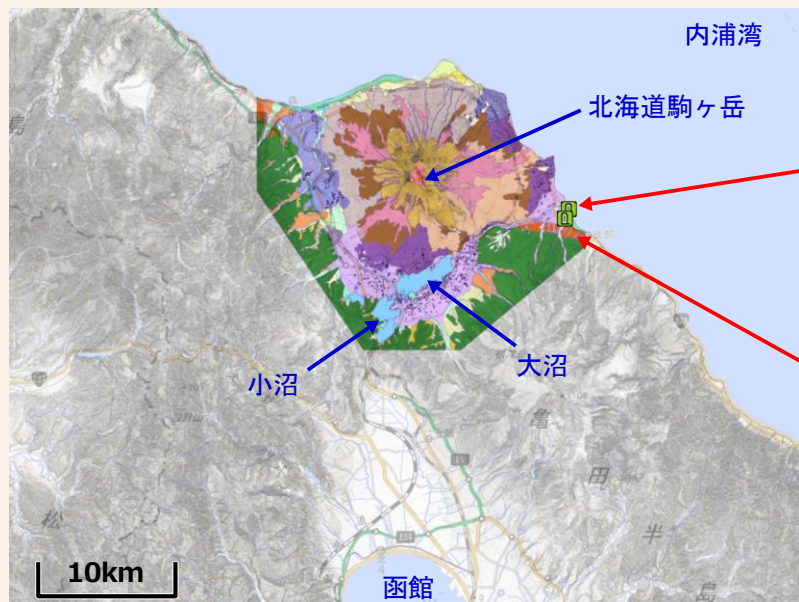
函館の北側にある活火山で、山頂から大沼にかけては国定公園に指定されている景勝地だよ。

最近は大きな噴火がないけど、昭和の前半までは大きな噴火を繰り返していたんだ。

昭和4年(1929年)の噴火は規模が大きく、噴煙が13,000mの高さまで上がり、山腹に火砕流が流れ下ったり、山麓では火山灰や噴石が厚く降り積もったんだ。



概略位置図



①北海道駒ヶ岳大噴火災害伝承碑

昭和4年(1929)6月17日駒ヶ岳爆発、噴煙1万3千mに達し大噴火となる。午後から降灰・石、1.5mに達し、家屋倒壊・埋没。火砕流により山林延焼。隣接する岩(溶結凝灰岩)は、1640年の大噴火で出来潤崎海岸まで流下したもの。

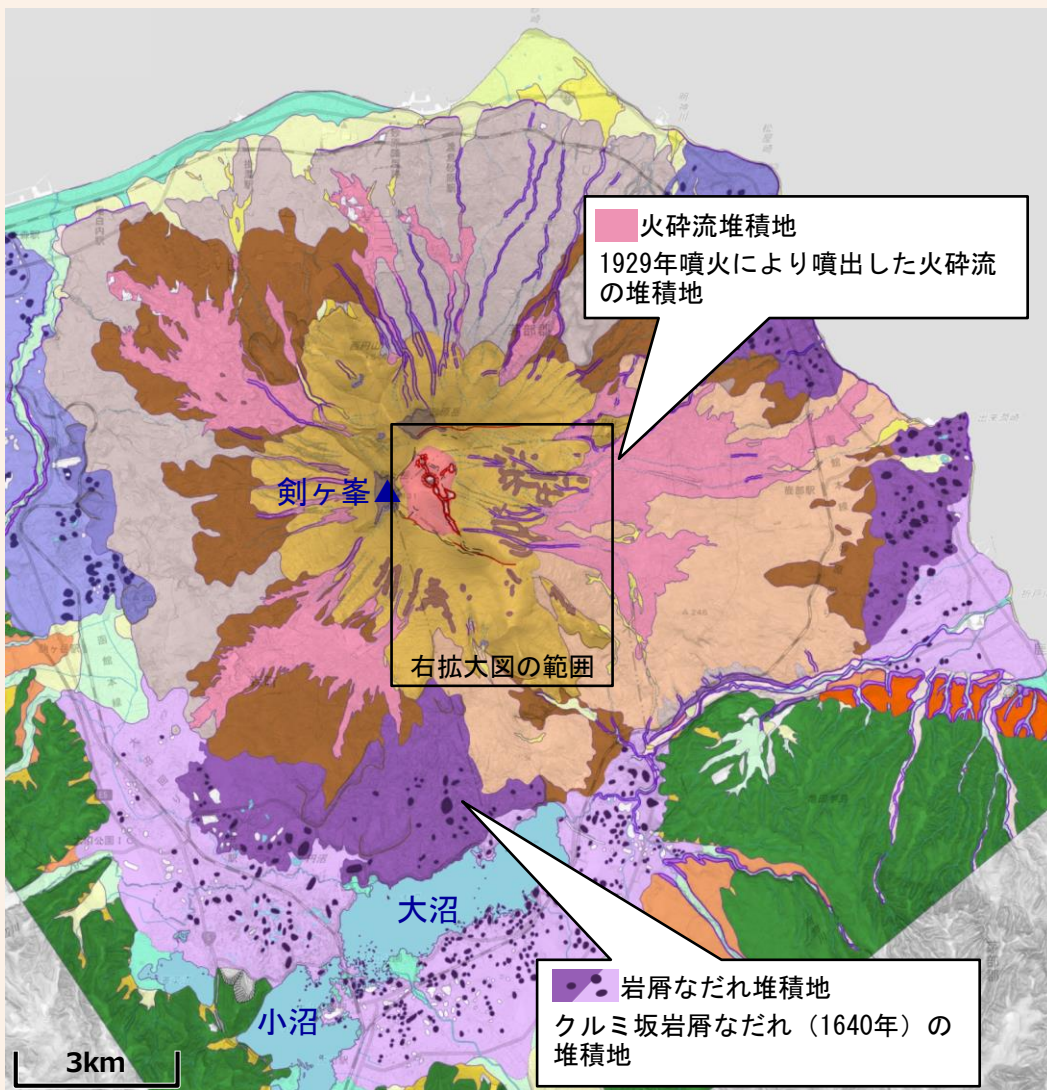


②駒ヶ岳爆発記念碑

昭和4年(1929)6月17日、駒ヶ岳が噴火した。噴煙高度は13,900mにも及び、周辺8町村で火砕流、噴石、降下軽石、火山ガスによる被害が発生し、死者2名、負傷者4名を出したほか、山林耕地で大きな被害を出す災害となった。隣接してこの噴火で被害を受けた昆布礁の復興碑が建立されている。



火山地形分類データ (1993年調査)



傾斜量図と色別標高図の重ね合わせ

